

第4回 道路のA I活用検討会 議事要旨

1. 日時；令和4年2月14日（月）16：00～16：30
2. 場所；Web 会議（中部地方整備局、中日本高速道路株式会社、三重県）
3. 要旨

【挨拶；三重県水野県土整備部長】

本日は、三重県における中期計画を策定するというご意見いただければと思います。今後5年でカメラ100基の設置を計画していますが、今後それをどう活用していくのかということを検討していく必要があると思う。

引き続き、整備局やネクスコのご指導をいただきながら、来年度以降の利活用について検討を進めていけばと思っている。

【意見交換】

○松居道路部長

今回の計画案では、現実的な数字を目標にしており、交付金などを活用して、整備を進めてもらえればと思っている。また、技術的な部分は色々と連携していければと思っている。

○末吉保全・サービス事業部長

大規模災害時には、道路管理者が相互に連携し、如何にして緊急輸送道路を確保するかが重要となる。三重県として今回設置するA Iカメラを活用して頂くことで、災害時に高速道路、国道、県道の道路ネットワーク全体として最大限活用する取り組みになるよう、引き続き連携させていただきたい。

○水野県土整備部長

前回の検討会においても、三者で有効活用できる箇所を選定してほしいことをお願いしていたが、三者で調整してどういった箇所に設置するのがいいのか、設置していくといろいろな課題が見えてくると思うが、来年度以降どういった箇所に優先的に設置していくのかがあれば教えてほしい。

○三重県（事務局）

緊急輸送道路をメインに設置していくように考えているが、具体的な箇所選定は皆様からの意見を伺いながら、今後の検討を予定している。

設置が進めば、新たな課題も見えてくると思うので、その都度考えながら対応していければと思っている。

○水野県土整備部長

三者が共有して状況を確認したい箇所に設置にしていただければと思う。

現在のAIカメラの画像データは、整備局とネクスコが確認できる状況であるのか。

○三重県（事務局）

現時点では、確認できる状況にない。

○水野県土整備部長

三重県ではどういった画像をとらえて、どういうデータを取っているのかを皆さんに見ていただき、どういう活用方法があるのかを検討していただくのが大事だと思う。事務局において、整備局やネクスコが画像データを確認できるように対応してください。

整備局とネクスコで災害時の異常検知の研究が進んでいると思うが、実際の運用は進んでいるのか。

○松居道路部長

実験的な取り組みは行っているが、自動判定するような運用は現在できていない。現状のカメラで、速度の状況や停止の状況を把握し、降雪時に一定のアラートを検知するようなレベルまでは達していないのが現状である。

○末吉保全・サービス事業部長

高速道路上のカメラについては、道路管制センターにおいて24時間体制での集中監視を行っている。今後、AI技術等の要素技術を活用し、自動検知技術等の導入検討を進めているところである。

○松居道路部長

緊急輸送道路をメインに異常検知を導入していく場合の参考として、中部版の南海トラフでのくしの歯戦略があり、緊急輸送道路の中でも特に重要な施設へ向かう道路を指定しており、路線選定やプライオリティを考える際の参考になるのではと思う。

○水野県土整備部長

本計画の今後の公表のスケジュールはどうか。

○三重県（事務局）

3月中旬を予定している。

以上